

後期読書旬間(7~22日) ~ 7日(水)校長講話から ~

「サンタクロースっているんでしょうか？」こんな疑問をもったアメリカの8才の女の子がサン新聞社に手紙を書きました。今から110年くらい前の話です。



きしゃさま わたしは、八つです。
 わたしの友達に「サンタクロースなんていないんだ」
 って言っている子がいます。
 パパに聞いてみたら、「サン新聞に、問い合わせでござん。新聞社で、
 サンタクロースがいるというなら、そりゃもう、確かにいるんだらうよ」
 と言いました。
 ですから、お願いします。教えてください。
 サンタクロースって、本当にいるんでしょうか？
 バージニア=オハンロン ニューヨーク市 西95丁目115番地



バーージニア・オハンロン



フランシス・P・チャーチ

このバーージニアの質問に新聞の記事で返事を書いたのは、フランシス・P・チャーチという記者です。その内容は、次のようなものです。

バージニア、お答えします。サンタクロースなんていないんだというあなたのお友達は、間違っています。(中略)
 私たちの住んでいる、この限りなく広い宇宙では、人間の知恵は、一匹の虫のように、それこそ、ありのように、小さいのです。その広く、また深い世界を推し量るには、世の中のことすべてを理解し、すべてのことを知るような、大きな、深い知恵が必要なのです。(中略)

この世界で一番確かなこと、それは、子どもの目にも、大人も目にもみえないものなのですから。バーージニア、あなたは、妖精が芝生で踊っているのを見たことがありますか？ もちろんないでしょう。だからといって、妖精なんて、有りもしないでたらめなんてことにはなりません。この世の中にある見えないもの、見るできないものが、何から何まで、人が頭の中で創り出し、想像したものなどということは、決してないのです。(中略)

サンタクロースがいない、ですって。とんでもない！ うれしいことに、サンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでも死なないでしょう。一千年後までも、百万年後までも、サンタクロースは、子ども達の心を今と変わらず、喜ばせてくれることでしょう。

* 紙面の関係で新聞の記事は一部省略してあります。是非、この本を読んでみてください。

東日本大震災で津波により、人間の作った目に見える、家・船・ビル・発電所などが壊されました。尊い命も失われました。しかし、目に見えないもの、「人の優しい心」や「悲しみを乗り越えがんばろうとする心」は壊されませんでした。



読書ボランティアの方々の読み聞かせ

絵本の中にある「**この世界で一番確かなこと、それは、子どもの目にも、大人も目にもみえないもの**」という言葉が、私は心に響きました。

さあ、読書旬間が始まります。すてきな本に出会える旬間としてください。

図書委員会の発表（児童集会 11月30日（水））



図書委員会からも読書旬間のお知らせがありました（右写真）。

また、たくさんの本を読んでいる友達も紹介されました（左写真）。



すきな本にであおう

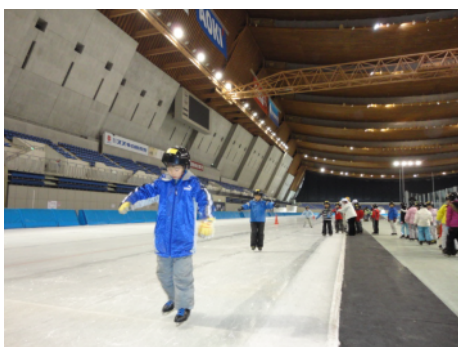
最近の学校生活から

さくら・あんず組の皆さんが10月12日に社会見学に出かけ、松代陶苑さんで松代焼き



を制作しました。立派に焼き上がった作品が届いたため、先週、校長室で作品展を開催しました（左）。全校に呼びかけたところ、たくさんのお友達が訪れ、感想を書いてくれました。

12月1日には、来年辰年の年男・年女の**5年生**の皆さんが、千曲市報の表紙撮影に協力しました（右）。1月号を楽しみにお待ちください。



12月6日、**2年生**スケート教室を行いました（左）。またたく間に上手になる子どもたちでした。8日、3年生も実施します。